日野市公営企業会計決算審査意見書

写

日　監　第　４　８　号

令和8年（2026年）8月21日

日 野 市 長

古 賀 壮 志 様

日野市監査委員　上木　清光

日野市監査委員　伊東　秀章

令和7年度日野市公営企業会計決算

審査意見について

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定に基づき、審査に付された令和7年度日野市立病院事業会計及び令和7年度日野市下水道事業会計決算について審査した結果、次のとおり意見を付します。

目　　次

市立病院事業会計
第１　審査の概要 －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ８４
１　審査の種類 －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ８４
２　審査の対象 －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ８４
３　審査の期間 －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ８４
４　審査の着眼点及び実施内容 －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ８４

第２　審査の結果 －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ８５
１　総　括 －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ８５
２　経営状況について －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ８５
（１）　収益的収入及び支出について －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ８５
（２）　経営成績について －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ８９
（３）　薬品及び貯蔵品について －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ９５
３　資本的収入及び支出について －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ９６
（１）　資本的収支状況について －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ９６
（２）　有形固定資産の購入状況について －－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ９７
４　財政状況について －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ９８

第３　意見・要望等 －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ １０２

下水道事業会計

第１　審査の概要　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１０６
　１　審査の種類　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１０６
　２　審査の対象　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１０６
　３　審査の期間　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１０６
　４　審査の着眼点及び実施内容　－－－－－－－－－－－－－－－－－　１０６

第２　審査の結果　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１０７
　１　総　括　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１０７
　２　業務状況について　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１０７
　３　経営状況について　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１０８
　　（１）　収益的収入及び支出について　－－－－－－－－－－－－－－　１０８
　　（２）　経営成績について　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１１０
　４　資本的収入及び支出について　－－－－－－－－－－－－－－－－－　１１３
　　（１）　資本的収支状況について　－－－－－－－－－－－－－－－－　１１３
　　（２）　建設改良事業の概況について　－－－－－－－－－－－－－－　１１４
　５　財政状況について　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１１５
　６　経営指標について　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１１８

第３　意見・要望等　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　１１９

注　　記

イ　文中に用いる金額は原則として千円単位で表示し、単位未満を四捨五入した。
　そのため、合計等と符合しない場合がある。

ロ　比率（％）は、原則として小数点以下第２位を四捨五入した。

ハ　構成比については、内訳の計が１００．０％とならない場合がある。

令和７年度日野市立病院事業会計決算

審　　査　　意　　見　　書

第１　審査の概要

１　審査の種類

地方公営企業法第３０条第２項の規定による審査

２　審査の対象

令和７年度日野市立病院事業会計決算

３　審査の期間

令和８年６月１０日から令和８年８月４日まで

４　審査の着眼点及び実施内容

この審査にあたっては、市長から審査に付された決算関係書類が、公営企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかどうかを検証するため、諸会計帳票及び証書類との照合等、通常実施すべき手続きにより審査した。

なお、事業が経済性及び公共性の特質を生かしているかどうかを主眼として考察した。

本審査は日野市監査基準に準拠し実施した。

第２　審査の結果

１　総　括

審査に付された決算諸表は、地方公営企業法及び関係法令に準拠して作成され、病院事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

２　経営状況について

（１）収益的収入及び支出について

ア　病院事業収益は、表１に示すとおりである。

◎病院事業収益は、７７億４，９９４万８千円で前年度７６億９，３４６万３千円と比べ、５，６４８万５千円（０．７％）の増加となっている。

○医業収益は、６２億１，３１６万２千円で前年度６３億３，９６６万４千円と比べ、１億２，６５０万２千円（２．０％）の減少となっている。

・内訳は、入院収益が４２億９，３２３万４千円で前年度４３億２，７７１万１千円と比べ、３，４４７万８千円（０．８％）の減少、外来収益が１７億５，９３２万７千円で前年度１８億３，６９８万１千円と比べ、７，７６５万４千円（４．２％）の減少、その他医業収益が１億６，０６０万１千円で前年度１億７，４９７万２千円と比べ、１，４３７万１千円（８．２％）の減少となっている。

○医業外収益は、１５億１，７６３万６千円で前年度１３億４，９７３万円と比べ、１億６，７９０万６千円（１２．４％）の増加となっている。

・内訳は、受取利息及び配当金が１８７万９千円で前年度７９万１千円と比べ、１０８万８千円（１３７．６％）の増加、国庫補助金が９，２１６万４千円で前年度３６９万８千円と比べ、８，８４６万６千円（２，３９２．３％）の増加、都補助金が４億３，５８９万円で前年度３億８，３１０万５千円と比べ、５，２７８万６千円（１３．８％）の増加、負担金交付金が６億９，６００万円で前年度７億１，１００万円と比べ、１，５００万円（２．１％）の減少、他会計補助金が１，６００万円で前年度と同一、その他医業外収益は、１億４，６７６万８千円で前年度１億２，６５２万６千円と比べ、２，０２４万１千円（１６．０％）の増加、長期前受金戻入は、１億２，８９３万５千円で前年度１億８６１万１千円と比べ、２，０３２万５千円（１８．７％）の増加となっている。

○特別利益は、１，９１５万円で前年度４０６万９千円と比べ、１，５０８万１千円（３７０．６％）の増加となっている。

表１

病院事業収益年度比較表

（単位：円：％）

科目＼区分	令和７年度 決算額(A)	令和７年度 構成比	令和６年度 決算額(B)	令和６年度 構成比	対前年度 増減額(A)－(B)	対前年度 比率
病院事業収益	7,749,948,106	100.0	7,693,463,094	100.0	56,485,012	0.7
医業収益	6,213,161,850	80.2	6,339,663,952	82.4	△ 126,502,102	△ 2.0
入院収益	4,293,233,561	55.4	4,327,711,125	56.3	△ 34,477,564	△ 0.8
外来収益	1,759,327,453	22.7	1,836,981,280	23.9	△ 77,653,827	△ 4.2
その他医業収益	160,600,836	2.1	174,971,547	2.3	△ 14,370,711	△ 8.2
医業外収益	1,517,635,942	19.6	1,349,730,058	17.5	167,905,884	12.4
受取利息及び配当金	1,878,926	0.0	790,899	0.0	1,088,027	137.6
国庫補助金	92,164,000	1.2	3,698,000	0.0	88,466,000	2,392.3
都補助金	435,890,266	5.6	383,104,552	5.0	52,785,714	13.8
負担金交付金	696,000,000	9.0	711,000,000	9.2	△ 15,000,000	△ 2.1
他会計補助金	16,000,000	0.2	16,000,000	0.2	0	0.0
その他医業外収益	146,767,579	1.9	126,526,091	1.6	20,241,488	16.0
長期前受金戻入	128,935,171	1.7	108,610,516	1.4	20,324,655	18.7
特別利益	19,150,314	0.2	4,069,084	0.1	15,081,230	370.6
過年度損益修正益	19,150,314	0.2	4,069,084	0.1	15,081,230	370.6
その他特別利益	0	0.0	0	0.0	0	－

イ　病院事業費用の年度比較は、表２に示すとおりである。

◎病院事業費用は、９１億９，９２１万３千円で前年度９１億２，３３４万４千円

と比べ、７，５８６万９千円（０．８％）の増加となっている。

○医業費用は、８８億２．２２１万９千円で前年度８７億１，９５２万６千円と比べ、１億２６９万２千円（１．２％）の増加となっている。

・内訳は、給与費が５４億４，５００万５千円で前年度５１億６，８８６万４千円と比べ、２億７，６１４万１千円（５．３％）の増加、材料費が１４億７，４８５万７千円で前年度１５億２２８万１千円と比べ、２，７４２万４千円（１．８％）の減少、経費が１４億８，００７万７千円で前年度１４億５，９７３万５千円と比べ、２，０３４万２千円（１．４％）の増加、減価償却費が４億７４７万７千円で前年度５億６，４４８万２千円と比べ、１億５，７００万５千円（２７．８％）の減少、資産減耗費が２２０万２千円で前年度７５３万円と比べ、５３２万８千円（７０．８％）の減少、研究研修費が１，２６０万２千円で前年度１，６６３万５千円と比べ、４０３万３千円（２４．２％）の減少となっている。

○医業外費用は、３億７，４０５万円で前年度４億２０６万３千円と比べ、２，８０１万３千円（７．０％）の減少となっている。

・内訳は、支払利息が６，４９６万９千円で前年度７，１３０万６千円と比べ、６３３万７千円（８．９％）の減少、消費税及び地方消費税が１，４１６万円で前年度１，２８９万７千円と比べ、１２６万４千円（９．８％）の増加、雑損失が２億９，４９２万１千円で前年度３億１，７８６万１千円と比べ、２，２９４万円（７．２％）の減少となっている。

○特別損失は、２９４万４千円で前年度１７５万５千円と比べ、１１８万９千円（６７．８％）の増加となっている。

・内訳は、過年度損益修正損が２１９万４千円で前年度１７５万５千円と比べ、４３万９千円（２５．０％）の増加、その他特別損失が７５万円で前年度０円と比べ、皆増となっている。

表２

病院事業費用年度比較表

（単位：円：％）

科目＼区分			令和７年度 決算額(A)	令和７年度 構成比	令和６年度 決算額(B)	令和６年度 構成比	対前年度 増減額(A)－(B)	対前年度 比率
病院事業費用			9,199,212,900	100.0	9,123,344,199	100.0	75,868,701	0.8
	医業費用		8,822,218,802	95.9	8,719,526,401	95.6	102,692,401	1.2
		給与費	5,445,004,965	59.2	5,168,863,764	56.7	276,141,201	5.3
		材料費	1,474,856,513	16.0	1,502,280,998	16.5	△ 27,424,485	△ 1.8
		経費	1,480,077,408	16.1	1,459,735,374	16.0	20,342,034	1.4
		減価償却費	407,476,543	4.4	564,482,021	6.2	△ 157,005,478	△ 27.8
		資産減耗費	2,201,658	0.0	7,529,527	0.1	△ 5,327,869	△ 70.8
		研究研修費	12,601,715	0.1	16,634,717	0.2	△ 4,033,002	△ 24.2
	医業外費用		374,049,987	4.1	402,063,111	4.4	△ 28,013,124	△ 7.0
		支払利息	64,968,579	0.7	71,305,548	0.8	△ 6,336,969	△ 8.9
		消費税及び地方消費税	14,160,200	0.2	12,896,500	0.1	1,263,700	9.8
		雑損失	294,921,208	3.2	317,861,063	3.5	△ 22,939,855	△ 7.2
	特別損失		2,944,111	0.0	1,754,687	0.0	1,189,424	67.8
		過年度損益修正損	2,194,111	0.0	1,754,687	0.0	439,424	25.0
		その他特別損失	750,000	0.0	0	0.0	750,000	皆増

ウ　診療報酬請求及び審査減の年度比較は、表３に示すとおりである。

病院事業収益の中心は診療報酬であり、保険医療機関が保険者（社会保険診療報酬支払基金等）に請求し、審査委員会の審査を経て収入されるものであるが、審査委員会の査定により減点されることがある。

なお、審査減については、見直し後再請求している。

注　審査減：診療報酬請求において、診療行為等が保険診療のルールに適合しているか確認する審査により減点など査定されたもの

表３

診療報酬請求及び審査減の年度比較表

入　院

区　　分		令和７年度	令和６年度	令和５年度
請　　求	件　　数	7,688	7,821	7,335
	点　　数	432,480,548	432,098,231	397,451,801
審　査　減	件　　数	670	844	707
	点　　数	683,937	840,640	639,613
請求に対する審査減の割合（%）	件　　数	8.7	10.8	9.6
	点　　数	0.16	0.19	0.16

外　来

区　　分		令和７年度	令和６年度	令和５年度
請　　求	件　　数	110,913	113,153	117,686
	点　　数	181,709,012	187,982,872	190,413,696
審　査　減	件　　数	3,318	3,230	2,673
	点　　数	585,491	646,426	475,709
請求に対する審査減の割合（%）	件　　数	3.0	2.9	2.3
	点　　数	0.32	0.34	0.25

（２）経営成績について

ア　比較損益計算書は、表４に示すとおりである。

・医業損失は、２６億９０５万７千円で前年度２３億７，９８６万２千円と比べ、２億２，９１９万５千円（９．６％）の増加となっている。

・経常損失は、１４億６，５４７万１千円で前年度１４億３，２１９万６千円と比べ、３，３２７万５千円（２．３％）の増加となっている。

・当年度純損失は、１４億４，９２６万５千円で前年度１４億２，９８８万１千円と比べ、１，９３８万４千円（１．４％）の増加となっている。

表４

比較損益計算書

（単位：円：％）

科目	令和7年度			令和6年度		令和5年度
	金額	対前年度		金額	対前年度比率	金額
		増減額	比率			
医業収益（A）	6,213,161,850	△ 126,502,102	△ 2.0	6,339,663,952	4.7	6,053,362,199
入院収益	4,293,233,561	△ 34,477,564	△ 0.8	4,327,711,125	7.4	4,029,506,052
外来収益	1,759,327,453	△ 77,653,827	△ 4.2	1,836,981,280	△ 0.8	1,851,117,912
その他医業収益	160,600,836	△ 14,370,711	△ 8.2	174,971,547	1.3	172,738,235
医業費用（B）	8,822,218,802	102,692,401	1.2	8,719,526,401	7.2	8,135,101,205
給与費	5,445,004,965	276,141,201	5.3	5,168,863,764	9.9	4,703,078,552
材料費	1,474,856,513	△ 27,424,485	△ 1.8	1,502,280,998	7.2	1,401,403,844
経費	1,480,077,408	20,342,034	1.4	1,459,735,374	0.9	1,447,170,368
減価償却費	407,476,543	△ 157,005,478	△ 27.8	564,482,021	1.8	554,764,265
資産減耗費	2,201,658	△ 5,327,869	△ 70.8	7,529,527	△ 38.9	12,313,429
研究研修費	12,601,715	△ 4,033,002	△ 24.2	16,634,717	1.6	16,370,747
医業損益（C）＝（A）－（B）	△ 2,609,056,952	△ 229,194,503	9.6	△ 2,379,862,449	14.3	△ 2,081,739,006
医業外収益（D）	1,517,635,942	167,905,884	12.4	1,349,730,058	0.2	1,346,808,127
受取利息及び配当金	1,878,926	1,088,027	137.6	790,899	2,128.7	35,487
国庫補助金	92,164,000	88,466,000	2,392.3	3,698,000	△ 11.0	4,155,000
都補助金	435,890,266	52,785,714	13.8	383,104,552	△ 19.6	476,458,541
負担金交付金	696,000,000	△ 15,000,000	△ 2.1	711,000,000	14.3	622,000,000
他会計補助金	16,000,000	0	0.0	16,000,000	0.0	16,000,000
その他医業外収益	146,767,579	20,241,488	16.0	126,526,091	△ 1.9	128,921,242
長期前受金戻入	128,935,171	20,324,655	18.7	108,610,516	9.4	99,237,857
医業外費用（E）	374,049,987	△ 28,013,124	△ 7.0	402,063,111	3.9	387,032,075
支払利息	64,968,579	△ 6,336,969	△ 8.9	71,305,548	△ 10.5	79,667,195
消費税及び地方消費税	14,160,200	1,263,700	9.8	12,896,500	△ 12.1	14,672,100
雑損失	294,921,208	△ 22,939,855	△ 7.2	317,861,063	8.6	292,692,780
医業外損益（F）＝（D）－（E）	1,143,585,955	195,919,008	20.7	947,666,947	△ 1.3	959,776,052
経常損益（G）＝（C）＋（F）	△ 1,465,470,997	△ 33,275,495	2.3	△ 1,432,195,502	27.7	△ 1,121,962,954
特別利益（H）	19,150,314	15,081,230	370.6	4,069,084	△ 78.5	18,932,257
過年度損益修正益	19,150,314	15,081,230	370.6	4,069,084	△ 76.4	17,276,127
その他特別利益	0	0	0.0	0	皆減	1,656,130
特別損失（I）	2,944,111	1,189,424	67.8	1,754,687	△ 88.0	14,632,689
過年度損益修正損	2,194,111	439,424	25.0	1,754,687	△ 54.4	3,847,689
その他特別損失	750,000	750,000	皆増	0	皆減	10,785,000
特別損益（J）＝（H）－（I）	16,206,203	13,891,806	600.2	2,314,397	△ 46.2	4,299,568
当年度純損益（K）＝（G）＋（J）	△ 1,449,264,794	△ 19,383,689	1.4	△ 1,429,881,105	27.9	△ 1,117,663,386
前年度繰越利益剰余金	△ 9,343,163,690	△ 1,429,881,105	18.1	△ 7,913,282,585	16.4	△ 6,795,619,199
その他未処分利益剰余金変動額	9,343,163,690	9,343,163,690	皆増	0	0.0	0
当年度未処理欠損金	1,449,264,794	△ 7,893,898,896	△ 84.5	9,343,163,690	18.1	7,913,282,585

イ　病院利用状況等の年度比較は、表５に示すとおりである。

表５

病院利用状況等年度比較表

区分				令和７年度	令和６年度	令和５年度	対前年度増減率（%）	備考
病床数				床 300	床 300	床 300	0.0	
病床利用率				% 65.0	% 65.3	% 61.9	△ 0.3	(A) /年延病床数×100
患者数	入院	年間		人 71,131	人 71,470	人 67,911	△ 0.5	年延入院患者数 (A)
		一日平均		人 194.9	人 195.8	人 185.6	△ 0.5	(A) /入院診療日数（表外に注記）
	外来	年間		人 143,363	人 149,068	人 155,523	△ 3.8	年延外来患者数 (B)
		一日平均		人 592.4	人 613.4	人 640.0	△ 3.4	(B) /外来診療日数（表外に注記）
	合計	年間		人 214,494	人 220,538	人 223,434	△ 2.7	
		一日平均		人 787.3	人 809.2	人 825.6	△ 2.7	
	外来・入院患者比率			% 201.5	% 208.6	% 229.0	△ 7.1	(B)／ (A) ×100
	職員一人当たり患者数	医師	入院	人 3.4	人 3.3	人 3.2	3.0	(A)／年延医師数
			外来	人 6.9	人 6.9	人 7.3	0.0	(B)／年延医師数
		看護部門職員	入院	人 0.9	人 0.8	人 0.8	12.5	(A)／年延看護部門職員数
			外来	人 1.7	人 1.7	人 1.8	0.0	(B)／年延看護部門職員数
対医業収益比	材料費	薬品費		% 13.4	% 13.5	% 13.9	△ 0.1	薬品費／医業収益×100
		診療材料費		% 11.6	% 11.5	% 10.5	0.1	診療材料費／医業収益×100
		その他医療材料費		% 1.0	% 1.0	% 1.0	0.0	その他診療材料費／医業収益×100
		合計		% 26.0	% 26.0	% 25.4	0.0	医療材料費／医業収益×100
	給与費			% 87.4	% 81.3	% 77.5	6.1	給与費／医業収益×100

◆　入院診療日数は、令和７年度が 365 日、令和６年度が 365 日、令和５年度が 366 日

◆　外来診療日数は、令和７年度が 242 日、令和６年度が 243 日、令和５年度が 243 日

ウ　診療科別利用状況の年度比較は、入院（表６）、外来（表７（９３ページ））に

示すとおりである。

表６

診療科別利用状況年度比較表

（単位：人：円：点）

入　院

区分 / 科別	令和７年度				令和６年度				対前年度延患者数増減率
	延患者数	構成比	収入点数	構成比	延患者数	構成比	収入点数	構成比	
内科	23,347	32.8	112,660,924.4	26.2	24,333	34.0	117,041,379.6	27.1	△ 4.1
循環器内科	6,047	8.5	32,408,916.6	7.5	5,719	8.0	32,687,899.9	7.6	5.7
小児科	4,199	5.9	26,222,262.1	6.1	4,395	6.1	27,489,046.5	6.4	△ 4.5
外科	11,467	16.1	73,834,439.1	17.2	10,704	15.0	68,940,877.0	15.9	7.1
整形外科	16,715	23.6	116,706,564.9	27.2	17,956	25.1	124,245,200.4	28.7	△ 6.9
脳神経外科	758	1.1	3,672,703.6	0.9	652	0.9	3,493,942.4	0.8	16.3
皮膚科	131	0.2	525,132.1	0.1	21	0.0	94,495.4	0.0	523.8
泌尿器科	2,296	3.2	11,239,700.5	2.6	2,121	3.0	11,030,756.4	2.5	8.3
産婦人科	2,770	3.9	23,841,918.1	5.6	2,549	3.6	22,634,629.9	5.2	8.7
眼科	742	1.0	7,566,356.3	1.8	764	1.1	7,768,852.1	1.8	△ 2.9
耳鼻咽喉科	1,000	1.4	7,195,511.3	1.7	575	0.8	3,937,553.4	0.9	73.9
歯科口腔外科	1,633	2.3	13,046,527.4	3.0	1,622	2.3	13,005,069.6	3.0	0.7
麻酔科	26	0.0	423,438.0	0.1	54	0.1	349,063.6	0.1	△ 51.9
救急科	0	0.0	0.0	0.0	5	0.0	54,681.3	0.0	皆減
合計	71,131	100.0	429,344,394.4	100.0	71,470	100.0	432,773,447.5	100.0	△ 0.5

表７

診療科別利用状況年度比較表

（単位：人：円：点）

外　来

区分／科別	令和７年度				令和６年度				対前年度延患者数増減率
	延患者数	構成比	収入点数	構成比	延患者数	構成比	収入点数	構成比	
内科（透析含む）	36,822	25.7	72,488,740.3	41.2	38,316	25.8	71,011,790.8	38.6	△ 3.9
循環器内科	5,879	4.1	7,317,947.9	4.2	7,041	4.7	9,104,864.3	4.9	△ 16.5
小児科	10,614	7.4	9,210,239.9	5.2	11,081	7.4	10,473,264.9	5.7	△ 4.2
外科	9,888	6.9	19,818,301.2	11.2	10,869	7.3	21,126,864.1	11.5	△ 9.0
整形外科	19,540	13.7	15,030,389.1	8.5	21,362	14.3	16,677,797.3	9.1	△ 8.5
脳神経外科	1,064	0.7	1,140,534.2	0.6	1,172	0.8	1,274,706.8	0.7	△ 9.2
皮膚科	7,465	5.2	3,475,582.4	2.0	7,659	5.1	3,354,110.0	1.8	△ 2.5
泌尿器科	9,284	6.5	12,726,822.6	7.2	10,745	7.2	16,448,290.5	8.9	△ 13.6
産婦人科	5,037	3.5	5,632,748.8	3.2	4,524	3.0	5,197,104.3	2.8	11.3
眼科	5,590	3.9	5,594,143.3	3.2	5,913	4.0	6,028,358.9	3.3	△ 5.5
耳鼻咽喉科	9,642	6.7	6,388,412.4	3.6	7,976	5.4	5,094,324.7	2.8	20.9
精神科	4,372	3.0	2,152,449.8	1.2	4,301	2.9	2,201,632.8	1.2	1.7
歯科口腔外科	8,749	6.1	9,830,854.8	5.6	8,780	5.9	10,481,583.7	5.7	△ 0.4
リハビリテーション科	4,542	3.2	1,894,335.1	1.1	4,612	3.1	2,035,810.9	1.1	△ 1.5
放射線科	329	0.2	805,134.5	0.5	275	0.2	727,054.7	0.4	19.6
麻酔科	3,946	2.8	1,136,168.2	0.6	3,934	2.6	1,298,833.1	0.7	0.3
救急科	600	0.4	1,527,743.9	0.9	508	0.3	1,422,664.3	0.8	18.1
合計	143,363	100.0	176,170,548.4	100.0	149,068	100.0	183,959,056.1	100.0	△ 3.8

エ　職員配置状況の年度末比較は、表８に示すとおりである。

表８

職員配置状況年度末比較表

（単位：人：％）

区分＼年度	令和７年度	令和６年度	対前年度	
			増　減	比　率
医　　師	57	59	△ 2	△ 3.4
看　護　職　員	228	237	△ 9	△ 3.8
医　療　技　術　職　員	69	69	0	0.0
事　務　職　員	28	29	△ 1	△ 3.4
合　　計	382	394	△ 12	△ 3.0

・当年度末職員総数は、３８２人で前年度末３９４人と比べ、１２人（３．０％）の減少となっている。
・当年度末医師数は、５７人で前年度末５９人と比べ、２人（３．４％）の減少となっている。
・当年度末看護職員数は、２２８人で前年度末２３７人と比べ、９人（３．８％）の減少となっている。
・当年度末医療技術職員数は、６９人で前年度と同一である。
・当年度末事務職員数は、２８人で前年度末２９人と比べ、１人（３．４％）の減少となっている。

注　医　　師：　医師、歯科医師
　　看 護 職 員：　助産師、看護師、准看護師
　　医療技術職員：　薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、
　　作業療法士、臨床工学技士、言語聴覚士、栄養士、
　　視能訓練士

（３）薬品及び貯蔵品について

ア　薬品使用効率の年度比較は、表９に示すとおりである。

・薬品使用効率は、７５．０％で前年度７５．８％と比べ、０．８ポイントの減少となっている。

・投薬薬品使用効率は、３３．０％で前年度３４．１％と比べ、１．１ポイントの減少となっている。

・注射薬品使用効率は、７９．０％で前年度８０．３％と比べ、１．３ポイントの減少となっている。

表９

薬品使用効率年度比較表

（単位：％）

区分＼年度		令和７年度	令和６年度	備　　考
薬品使用効率		75.0	75.8	投薬注射薬品収入／ 投薬注射薬品費×100
	投薬薬品使用効率	33.0	34.1	投薬薬品収入／ 投薬薬品費×100
	注射薬品使用効率	79.0	80.3	注射薬品収入／ 注射薬品費×100

イ　貯蔵品額等の年度比較は次のとおりである。

・貯蔵品額は、薬品４，６４６万５千円で前年度４，９９１万４千円と比べ、３４５万円（６．９％）の減少となっている。

・資産減耗費のうち棚卸資産減耗費は、１１８万９千円で前年度２８９万８千円と比べ、１７０万８千円（５９．０％）の減少となっている。

・診療材料については、在庫を持たず使用した分だけ費用として計上されている。

３　資本的収入及び支出について

（１）資本的収支状況について

ア　資本的収支状況は、表 10（９７ページ）に示すとおりである。

・資本的収入は、６億７，５９３万４千円で前年度８億２，７４５万円と比べ、１億５，１５１万６千円（１８．３％）の減少となっている。

・資本的支出は、１０億７，１０７万３千円で前年度１２億８，４２６万７千円と比べ、２億１，３１９万４千円（１６．６％）の減少となっている。

イ　資本的収入の内訳は、次のとおりである。

・都補助金は、１億２，４８５万２千円で前年度１億１，０３４万９千円と比べ、１，４５０万４千円（１３．１％）の増加となっている。

・出資金は、３億５，８００万円で前年度３億４，３００万円と比べ、１，５００万円（４．４％）の増加となっている。

・寄附金は、２００万円で前年度１，０１０万円と比べ、８１０万円（８０．２％）の減少となっている。

・基金積立金利息は、８万２千円で前年度１千円と比べ、８万１千円（７，２７１．０％）の増加となっている。

・企業債は、１億９，１００万円で前年度３億６，４００万円と比べ、１億７，３００万円（４７．５％）の減少となっている。

・助産師、看護師貸付金返還金は、０円で前年度と同一である。

ウ　資本的支出の内訳は、次のとおりである。

・建設改良費は、３億８，７３２万円で前年度６億２，１７６万６千円と比べ、２億３，４４４万６千円（３７．７％）の減少となっている。

・企業債返還金は、６億８，１６７万２千円で前年度６億５，２４０万円と比べ、２，９２７万２千円（４．５％）の増加となっている。

・基金積立金は、２０８万２千円で前年度１，０１０万１千円と比べ、８０１万９千円（７９．４％）の減少となっている。

表 10

資本的収支状況年度比較表

（単位：円：％）

科目＼区分		令和７年度 決算額 (A)	構成比	令和６年度 決算額 (B)	構成比	対前年度 増減額 (A) － (B)	比率
資本的収入		675,933,671	100.0	827,449,608	100.0	△ 151,515,937	△ 18.3
	都補助金	124,852,000	18.5	110,348,500	13.3	14,503,500	13.1
	出資金	358,000,000	53.0	343,000,000	41.5	15,000,000	4.4
	寄附金	2,000,000	0.3	10,100,000	1.2	△ 8,100,000	△ 80.2
	基金積立金利息	81,671	0.0	1,108	0.0	80,563	7,271.0
	企業債	191,000,000	28.3	364,000,000	44.0	△ 173,000,000	△ 47.5
	助産師、看護師貸付金返還金	0	0.0	0	0.0	0	―
資本的支出		1,071,073,296	100.0	1,284,266,801	100.0	△ 213,193,505	△ 16.6
	建設改良費	387,320,107	36.2	621,765,941	48.4	△ 234,445,834	△ 37.7
	企業債償還金	681,671,518	63.6	652,399,752	50.8	29,271,766	4.5
	基金積立金	2,081,671	0.2	10,101,108	0.8	△ 8,019,437	△ 79.4

エ　企業債償還状況は、表 11 に示すとおりである。

表 11

企業債償還状況

（単位：円）

発行総額	償還額		令和７年度末 現在額
	当年度償還額	償還額累計	
12,065,000,000	681,671,518	8,315,956,578	3,749,043,422

（２）有形固定資産の購入状況について

有形固定資産購入状況は、表 12 に示すとおりである。

医療器械等購入費は、１億５，０５１万６千円で前年度２億６，４０３万７千円と比べ、１億１，３５２万１千円（４３．０％）の減少となっている。

表 12

有形固定資産購入状況表（１機１００万円以上）

品　　名	数量	メーカー・規格		購入額（円）	設置場所	納入年月日
エアードリル	1	日本メドトロニック	MR8	2,551,450	手術室	R7.5.19
内視鏡洗浄器	2	永島医科器械	ESPAL　PLUS	2,477,200	耳鼻咽喉科	R7.9.5
自動細胞収集装置	1	サクラファインテック	CF-12E	1,034,000	臨床検査科	R7.10.20
術前計画ソフトウェア	1	㈱レキシー	Zed Hip、Zed Knee	2,431,000	整形外科	R7.10.6
大腸ビデオスコープ	3	オリンパスマーケティング	PCF-H290ZI、CF-H290I	11,715,000	内視鏡室	R7.9.3
超音波画像診断装置	1	富士フィルムメディカル	ARIETTA 65LE	5,115,000	泌尿器科	R7.9.26
検体前処理分注装置	1	日立ハイテク	LabFLEX2600G	27,977,400	臨床検査科	R8.3.19
病院救急車	1	トヨタ	C-CABIN	19,745,000	患者総合支援室	R8.2.5
個人用透析装置	2	日機装㈱	DBB-200Si	5,830,000	透析室	R8.2.24
電動ドリル	2	ジンマーバイオメット	ﾎｰﾙﾀｲﾀﾝ　ｵｼﾚｰﾃｨﾝｸﾞｿｰ ﾎｰﾙﾀｲﾀﾝ　ｼﾝｸﾞﾙﾄﾘｶﾞｰ	4,872,230	手術室	R8.1.23
手術用顕微鏡	1	カールツァイスメディック㈱	KINEVO 900	38,280,000	手術室	R8.2.20
４Dプローブ	1	GEヘルスケア・ジャパン㈱	RM6C PROBE TYPE_DOM	3,355,000	産婦人科	R8.2.9
NBC災害・テロ対策設備備品	1	KARTSANAほか	POWER BRAVAほか	16,170,000	災害部会	R8.3.10

４　財政状況について

病院事業の財政状況は、表13（１０１ページ）に示すとおりである。

（１）資産総額は、６５億６，５３２万１千円で前年度６９億７，２９９万８千円と比べ、４億７６７万７千円（５．８％）の減少となっている。

ア　固定資産は、５０億８２３万６千円で前年度５０億８，８１２万６千円と比べ、７，９８９万１千円（１．６％）の減少となっている。

（ア）有形固定資産は、４９億３，６０８万円で前年度５０億１，７３１万４千円と比べ、８，１２３万４千円（１．６％）の減少となっている。
内訳は、次のとおりである。なお、償却資産は、減価償却を行っている。
立木が、３，４９８万６千円で前年度と同一である。建物は、１２８億９，７５２万５千円で前年度１２８億２，０８２万５千円と比べ、７，６７０万円（０．６％）の増加となっている。構築物は、１億１，３２５万８千円で前年度と同

額である。器械備品は、４６億９，５９６万６千円で前年度４５億７，９３８万４千円と比べ、１億１，６５８万１千円（２．５％）の増加、リース資産は、３億２，９１４万２千円で前年度１３億１，７４６万５千円と比べ、９億８，８３２万３千円（７５．０％）の減少となっている。

（イ）無形固定資産は、１０万２千円で前年度と同一である。

（ウ）投資は、７，２０５万４千円で前年度７，０７１万１千円と比べ、１３４万３千円（１．９％）の増加となっている。

イ　流動資産は、１５億５，７０８万５千円で前年度１８億８，４８７万２千円と比べ、３億２，７７８万７千円（１７．４％）の減少となっている。

（ア）現金預金は、３億６，９２８万５千円で前年度６億６，３９９万４千円と比べ、２億９，４７０万９千円（４４．４％）の減少となっている。

（イ）未収金は、１１億３，５９７万８千円で前年度１１億６，５８０万３千円と比べ、２，９８２万５千円（２．６％）の減少となっている。

（ウ）貯蔵品は、４，６４６万５千円で前年度４，９９１万４千円と比べ、３４５万円（６．９％）の減少となっている。

（エ）その他流動資産は、５３５万７千円で前年度５１６万円と比べ、１９万７千円（３．８％）の増加となっている。

ウ　繰延勘定は、０円で前年度と同一である。

（２）負債総額は、７５億９，４３２万２千円で前年度６９億１，２８１万７千円と比べ、６億８，１５０万６千円（９．９％）の増加となっている。

ア　固定負債は、５４億８，６７４万５千円で前年度４７億６５万３千円と比べ、７億８，６０９万２千円（１６．７％）の増加となっている。

（ア）企業債は、３０億３，１６５万４千円で前年度３５億５，８０４万３千円と比べ、５億２，６３８万９千円（１４．８％）の減少となっている。

（イ）他会計借入金は、１０億円で前年度０円と比べ、皆増となっている。

（ウ）リース債務は、９，０５２万７千円で前年度４，３３６万７千円と比べ、４，７１６万円（１０８．７％）の増加となっている。

（エ）退職給付引当金は、１３億６，４５６万２千円で前年度１０億９，９２４万１千円と比べ、２億６，５３２万１千円（２４．１％）の増加となっている。

（オ）修繕引当金は、１千円で前年度と同一である。

イ　流動負債は、１６億６，６４４万８千円で前年度１７億６，６９５万１千円と比べ、１億５０万３千円（５．７％）の減少となっている。

（ア）企業債は、７億１，７３８万９千円で前年度６億８，１６７万２千円と比べ、３，５７１万８千円（５．２％）の増加となっている。
（イ）他会計借入金は、０円で前年度と同一である。
（ウ）リース債務は、６，６７６万９千円で前年度１億４，０３３万９千円と比べ、７，３５７万円（５２．４％）の減少となっている。
（エ）未払金は、５億３，１２６万３千円で前年度６億４，４３０万２千円と比べ、１億１，３０３万９千円（１７．５％）の減少となっている。
（オ）前受金は、４９７万７千円で前年度５４８万４千円と比べ、５０万７千円（９．２％）の減少となっている。
（カ）賞与引当金は、３億４，５５３万６千円で前年度２億９，３３８万９千円と比べ、５，２１４万７千円（１７．８％）の増加となっている。
（キ）その他流動負債は、５１万３千円で前年度１７６万６千円と比べ、１２５万３千円（７０．９％）の減少となっている。

ウ　繰延収益は、４億４，１１３万円で前年度４億４，５２１万３千円と比べ、４０８万３千円（０．９％）の減少となっている。

（３）資本総額は、△１０億２，９００万２千円で前年度６，０１８万１千円と比べ、△１０億８，９１８万３千円（１，８０９．８％）の減少となっている。

ア　資本金は、３億５，２７３万９千円で前年度９３億３，７９０万２千円と比べ、８９億８，５１６万４千円（９６．２％）の減少となっている。

イ　剰余金は、△１３億８，１７４万円で前年度△９２億７，７７２万１千円と比べ、７８億９，５９８万１千円（８５．１％）の増加となっている。

（ア）資本剰余金は、６，７５２万５千円で前年度６，５４４万３千円と比べ、２０８万２千円（３．２％）の増加となっている。
（イ）欠損金は、１４億４，９２６万５千円で前年度９３億４，３１６万４千円と比べ、７８億９，３８９万９千円（８４．５％）の減少となっている。

表 13

比 較 貸 借 対 照 表

（単位：円：％）

借方

科目	令和７年度 金額	構成比	対前年度 増減額	対前年度 比率	令和６年度 金額	構成比	対前年度比率	令和５年度 金額	構成比
資産の部									
固定資産	5,008,235,729	76.3	△ 79,890,707	△ 1.6	5,088,126,436	73.0	△ 3.1	5,252,922,926	65.1
有形固定資産	4,936,080,322	75.2	△ 81,233,938	△ 1.6	5,017,314,260	72.0	△ 3.4	5,192,211,858	64.3
土地	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
立木	34,986,000	0.5	0	0.0	34,986,000	0.5	0.0	34,986,000	0.4
建物	12,897,524,548	196.4	76,700,000	0.6	12,820,824,548	183.9	0.9	12,710,271,448	157.5
構築物	113,258,350	1.7	0	0.0	113,258,350	1.6	0.0	113,258,350	1.4
器械備品	4,695,965,618	71.5	116,581,160	2.5	4,579,384,458	65.7	3.3	4,431,821,023	54.9
リース資産	329,141,904	5.0	△ 988,322,979	△ 75.0	1,317,464,883	18.9	3.1	1,278,458,883	15.8
減価償却累計額	△ 13,134,796,098	200.1	713,807,881	△ 5.2	△ 13,848,603,979	198.6	3.5	△ 13,376,583,846	165.7
無形固定資産	101,508	0.0	0	0.0	101,508	0.0	0.0	101,508	0.0
電話加入権	101,508	0.0	0	0.0	101,508	0.0	0.0	101,508	0.0
投資	72,053,899	1.1	1,343,231	1.9	70,710,668	1.0	16.7	60,609,560	0.8
長期貸付金	4,517,833	0.1	△ 750,000	△ 14.2	5,267,833	0.1	0.0	5,267,833	0.1
基金	67,524,506	1.0	2,081,671	3.2	65,442,835	0.9	18.3	55,341,727	0.7
その他投資	11,560	0.0	11,560	皆増	0	0.0	0.0	0	0.0
流動資産	1,557,084,970	23.7	△ 327,786,701	△ 17.4	1,884,871,671	27.0	△ 33.1	2,819,344,951	34.9
現金預金	369,285,128	5.6	△ 294,708,956	△ 44.4	663,994,084	9.5	△ 61.6	1,727,500,118	21.4
未収金	1,135,978,358	17.3	△ 29,824,971	△ 2.6	1,165,803,329	16.7	11.6	1,044,763,670	12.9
貯蔵品	46,464,565	0.7	△ 3,449,874	△ 6.9	49,914,439	0.7	17.1	42,634,116	0.5
前払金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
保管有価証券	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
その他流動資産	5,356,919	0.1	197,100	3.8	5,159,819	0.1	16.0	4,447,047	0.1
繰延勘定	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
新病院建設費	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
資産合計	6,565,320,699	100.0	△ 407,677,408	△ 5.8	6,972,998,107	100.0	△ 13.6	8,072,267,877	100.0

貸方

科目	令和７年度 金額	構成比	対前年度 増減額	対前年度 比率	令和６年度 金額	構成比	対前年度比率	令和５年度 金額	構成比
負債の部									
固定負債	5,486,744,675	83.6	786,092,140	16.7	4,700,652,535	67.4	△ 2.5	4,820,656,423	59.7
企業債	3,031,654,202	46.2	△ 526,389,220	△ 14.8	3,558,043,422	51.0	△ 8.2	3,875,714,940	48.0
他会計借入金	1,000,000,000	15.2	1,000,000,000	皆増	0	0.0	0.0	0	0.0
リース債務	90,527,270	1.4	47,160,050	108.7	43,367,220	0.6	△ 67.1	131,836,810	1.6
退職給付引当金	1,364,562,485	20.8	265,321,310	24.1	1,099,241,175	15.8	35.6	810,514,955	10.0
修繕引当金	718	0.0	0	0.0	718	0.0	△ 100.0	2,589,718	0.0
流動負債	1,666,447,712	25.4	△ 100,503,254	△ 5.7	1,766,950,966	25.3	5.7	1,671,174,835	20.7
企業債	717,389,220	10.9	35,717,702	5.2	681,671,518	9.8	4.5	652,399,752	8.1
他会計借入金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
リース債務	66,769,176	1.0	△ 73,569,590	△ 52.4	140,338,766	2.0	△ 37.9	226,078,496	2.8
未払金	531,263,201	8.1	△ 113,038,719	△ 17.5	644,301,920	9.2	26.4	509,915,587	6.3
前受金	4,977,000	0.1	△ 507,000	△ 9.2	5,484,000	0.1	10.7	4,954,000	0.1
賞与引当金	345,536,000	5.3	52,147,000	17.8	293,389,000	4.2	6.1	276,465,000	3.4
その他流動負債	513,115	0.0	△ 1,252,647	△ 70.9	1,765,762	0.0	29.6	1,362,000	0.0
繰延収益	441,130,079	6.7	△ 4,083,171	△ 0.9	445,213,250	6.4	0.4	443,475,266	5.5
負債合計	7,594,322,466	115.7	681,505,715	9.9	6,912,816,751	99.1	△ 0.3	6,935,306,524	85.9
資本の部									
資本金	352,738,521	5.4	△ 8,985,163,690	△ 96.2	9,337,902,211	133.9	3.8	8,994,902,211	111.4
自己資本金	352,738,521	5.4	△ 8,985,163,690	△ 96.2	9,337,902,211	133.9	3.8	8,994,902,211	111.4
借入資本金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
企業債	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
剰余金	△ 1,381,740,288	△ 21.0	7,895,980,567	85.1	△ 9,277,720,855	△ 133.1	18.1	△ 7,857,940,858	△ 97.3
資本剰余金	67,524,506	1.0	2,081,671	3.2	65,442,835	0.9	18.3	55,341,727	0.7
国庫補助金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
都補助金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
他会計補助金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
寄附金	67,148,654	1.0	2,000,000	3.1	65,148,654	0.9	18.3	55,048,654	0.7
基金積立金利息	375,852	0.0	81,671	27.8	294,181	0.0	0.4	293,073	0.0
その他資本剰余金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
欠損金	1,449,264,794	△ 22.1	△ 7,893,898,896	△ 84.5	9,343,163,690	△ 134.0	18.1	7,913,282,585	△ 98.0
当年度未処理欠損金	1,449,264,794	△ 22.1	△ 7,893,898,896	△ 84.5	9,343,163,690	△ 134.0	18.1	7,913,282,585	△ 98.0
資本合計	△ 1,029,001,767	△ 15.7	△ 1,089,183,123	△ 1,809.8	60,181,356	0.9	△ 94.7	1,136,961,353	14.1
負債資本合計	6,565,320,699	100.0	△ 407,677,408	△ 5.8	6,972,998,107	100.0	△ 13.6	8,072,267,877	100.0

第３　意見・要望等

令和７年７月に、５年毎に更新している病院機能評価を受審し、１０月に令和１２年１月までの５年間の認定を受けた。このほか１２月に厚生労働省による施設基準等に係る適時調査、令和８年１月に東京都による医療法第２５条第１項の規定に基づく立ち入り検査を受けた。令和７年１１月には、分娩件数向上、人材確保及び周産期連携病院としての体制整備を主要施策した「産婦人科アクションプラン」を策定し、このプランに基づき、無痛分娩を開始した。また、１２月議会において資本金との相殺により累積欠損金を解消する議案の議決を得た。

一方、国のガイドラインを踏まえて策定した「日野市立病院経営強化プラン（５か年計画）に基づき、引き続き公立病院としての役割・機能の最適化と経営改善に取り組む中、今後も継続した医療サービスの提供が図れるよう、老朽化に伴う機器の入替等について、「医療機器等４か年整備計画」を策定した。

病院利用状況は、入院患者数７万１，１３１人で、前年度比０．５％減少した。病床利用率は６５．０％で、前年度比０．３ポイント減少した。外来患者数は１４万３，３６３人で、前年度比３．８％減少した。

救急車受入件数は２，８８８件で、前年度比１３．９ポイント増加した。紹介率は７５．０％で、前年度比２．６ポイント増加した。また、逆紹介率は１２９．８％で、前年度比７．３ポイント増加した。

収益的収入及び支出の状況は、病院事業収益が７７億４，９９４万８千円で、前年度比０．７％増加した。うち医業収益は６２億１，３１６万２千円で、前年度比２．０％減少した。これは、医業収益のうち入院収益は４２億９，３２３万４千円で、前年度比０．８％減少し、外来収益は１７億５，９３２万７千円で、前年度比４．２％減少したことによる。医業収益が減少した理由は、入院収益で、延入院患者数は３３９人（０．５％）減少し、１人当たりの単価が１９６円減少したこと、また、外来収益では、延外来患者数は５，７０５人（３．８％）減少し、１人当たり単価が５１円減少したことによるものである。

病院事業費用は９１億９，９２１万３千円、前年度比０．８％増加した。うち医業費用は８８億２，２２１万９千円で、前年度比１．２％増加した。主な医業費用の増減内訳は、給与費が５．３％増加、材料費が１．８％減少、経費が１．４％増加、減価償却費が２７．８％減少、資産減耗費が７０．８％減少となっている。また、特別損失は６７．８％の増加となっている。

資本的収入及び支出の状況では、資本的収入が６億７，５９３万４千円で、前年度比１８．３％減少した。主な増減内訳は、都補助金が１３．１％の増加、出資金が４．４％の増加、企業債が４７．５％の減少となっている。

資本的支出は、１０億７，１０７万３千円で前年度比１６．６％減少した。主な増減内訳は、有形固定資産購入費が４３．０％の減少、改良費が３０．６％の減少、リース債務償還金が３５．４％の減少、企業債償還金が４．５％の増加となり、また、寄付金及び基金積立利息を基金積立金に２０８万２千円積み立てた。

令和７年度の市立病院の経営成績は、当年度純損失１４億４，９２６万５千円となり、前年度純損失１４億２，９８８万１千円と比較すると１，９３８万４千円（１．４％）減少した。

純損失が悪化した主な理由は、病院事業収益の医業収益が前年度比２．０％、１億２，６５０万２千円減少し、医業外収益では国・都・市からの補助金等を含め前年度比１２．４％増加となり、病院事業収益全体は０．７％、５，６４８万５千円の増加となったものの、一方、病院事業費用が前年度比０．８％、７，５８６万９千円増加したことによるものである。

なお、当年度未処理欠損金は、前年度繰越欠損金９３億４，３１６万４千円を資本金との相殺により、累積欠損金を解消したため、当年度純損失と同額の１４億４，９２６万５千円となっている。

また、一般会計からの繰入金総額は１０億７，０００万円（病院事業会計７億１，２００万円、資本会計３億５，８００万円）で前年度と同額であったが、このほか経営支援金として、長期借入金１０億円が増額となった。

令和７年度のキャッシュ・フロー計算書では、業務活動によるキャッシュ・フローは８億２，８３３万５千円の赤字、前年度比９，８０３万５千円減少し、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローを合計した資金増減額は、２億９，４７０万９千円の減少となり、資金期末残高は３億６，９２８万５千円となった。

令和７年度の日野市立病院事業会計は、昨今の世界情勢の不安定な状況等による物価上昇に伴う経費や、給与費等人件費の増加に対する国・都の補助金が交付されたため、病院事業収益は微増となったが、それ以上に病院事業費用が増加したことにより、純損失が昨年度以上に生じたところである。

令和７年度の決算審査においては次の点を要望する。

経営改善に向けて

令和７年度は、地方公営企業法一部適用の最終年度であったが、コロナ禍後の患者の受療行動の変化により、入院、外来共に患者数が減少し、これにより１人当たりの診療単価及び外来収益が減少したため、経営の根幹である医業収益が減少した。

経営成績では、前年度繰越欠損金９３億４，３１６万４千円を資本金との相殺により、累積欠損金を解消したため、当年度純損失は１４億４，９２６万５千円となったものの、前年度純損失１４億２，９８８万１千円と比較すると１，９３８万４千円減少しており、依然多額の赤字を計上し続けている。

国・都の補助金では、物価高騰や給与費分の交付があり増加となった。また市からの繰入金は前年度と同額であったが、新たに経営支援のための長期借入金を受けたため、キャッシュ・フロー計算書による資金期末残高は３億６，９２８万５千円（基金除く）と資金枯渇は回避できたものの、資金期首残高に比べ２億９，４７０万９千円減少しており、引き続き早期の資金ショート状態に陥ることが危惧され、令和７年度はますます厳しい経営状況が浮き彫りとなった。

経営努力としては、産婦人科アクションプランを策定し、無痛分娩を開始し周産期連携病院としての体制整備の構築、院内蛍光灯のＬＥＤ化等により光熱水費の削減、医療機器等４か年整備計画を策定し、ベンチマークシステムを活用した材料費の購入価格の適正化を実施、医師の働き方改革の推進による時間外勤務時間の削減、救急搬送患者の積極的な受け入れや、地域医療支援病院における紹介率・逆紹介率の向上を図る等、経費削減と収益増の地道な努力が認められたことは評価できる。多方、患者からの過年度医業未収金が２，１０４万２千円余りとなっており、これらは本来医業収益として収入されるべきものであるため、未収金解消のため、引き続き催告を行うとともに、例規の整備を図り、平成１５年度からの回収不能の債権の整理を行う等、適切な債権管理に努められたい。

今後も、世界情勢の不安定による物価高騰や人材不足等、不確実で厳しい経営が予想されるが、外来患者及び入院患者の確保や、病床利用率の向上による医業収益の増加と物品等購入の工夫及びコストの適正化による経費節減を図られたい。同時に地方公営企業法の全部適用移行に伴い、事業管理者の責任と裁量による、柔軟な組織・人事運営やスピーディな意思決定が経営健全化に寄与することに期待した

い。また、移行後も課題は山積していると思料するため、診療報酬の改定や職員配置の適正化による人件費、施設の老朽化に伴う修繕費等、専門家による経営再建に向けた財務分析を行い、喫緊の課題である枯渇が懸念されている資金残高の減少について、市の財政を圧迫しないよう最善の経営手法を検討されたい。

　併せて、今後も地域医療機関との連携を強化しつつ、公共福祉の増進と、健全な病院経営により、質の高い医療サービスの提供に向け一層貢献されることを期待するものである。

令和７年度日野市下水道事業会計決算

審　　査　　意　　見　　書

第１　審査の概要

１　審査の種類

地方公営企業法第３０条第２項の規定による審査

２　審査の対象

令和７年度日野市下水道事業会計決算

３　審査の期間

令和８年６月１０日から令和８年８月４日まで

４　審査の着眼点及び実施内容

この審査にあたっては、市長から審査に付された決算関係書類が、公営企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかどうかを検証するため、諸会計帳票及び証書類との照合等、通常実施すべき手続きにより審査した。

なお、事業が経済性及び公共性の特質を生かしているかどうかを主眼として考察した。

本審査は日野市監査基準に準拠し実施した。

第２　審査の結果

１　総　括

審査に付された決算諸表は、地方公営企業法及び関係法令に準拠して作成され、下水道事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

２　業務状況について

下水道事業の業務状況の年度比較については、表１に示すとおりである。

年度末行政区域内人口は、１８９，３８２人で前年度１８８，７８５人と比べ、５９７人（０．３％）の増加となっている。

年度末処理区域内人口は、１８２，５７６人で前年度１８１，７３３人と比べ、８４３人（０．５％）の増加となっている。

普及率は、９６．４１％で前年度９６．２６％と比べ、０．１５ポイントの増加となっている。

年度末水洗便所設置済人口は、１７８，６９０人で前年度１７８，１２２人と比べ、５６８人（０．３％）の増加となっている。

水洗化率は、９７．８７％で前年度９８．０１％と比べ、０．１４ポイントの減少となっている。

年間総処理水量は、１９，１４６，０１５㎥で前年度２０，３０８，５３７㎥と比べ、１，１６２，５２２㎥（５．７％）の減少となっている。

年間有収水量は、１７，５２３，４７１㎥で前年度１７，４２５，６２５㎥と比べ、９７，８４６㎥（０．６％）の増加となっている。

有収率は、９１．５３％で前年度８５．８０％と比べ、５．７３ポイントの増加となっている。

表１　**業務状況年度比較表**

区　　分	単位	令和７年度	令和６年度	対前年度	
				増減	増減率（%）
年度末行政区域内人口（A）	人	189,382	188,785	597	0.3
年度末処理区域内人口（B）	人	182,576	181,733	843	0.5
普及率（B/A）	%	96.41	96.26	0.15	0.2
年度末水洗便所設置済人口（C）	人	178,690	178,122	568	0.3
水洗化率（C/B）	%	97.87	98.01	△ 0.14	△ 0.14
全体計画面積	ha	2,397	2,397	0	0.0
処理区域面積	ha	2,266	2,263	3	0.13
年間総処理水量（D）	㎥	19,146,015	20,308,537	△ 1,162,522	△ 5.7
一日平均処理水量	㎥	52,455	55,640	△ 3,185	△ 5.7
年間有収水量（E）	㎥	17,523,471	17,425,625	97,846	0.6
一日平均有収水量	㎥	48,010	47,741	269	0.6
有収率（E/D）	%	91.53	85.80	5.73	6.7

※「有収水量」は、年間総処理水量のうち下水道使用料徴収対象となる水量

※「有収率」は、処理水量のうち収益につながった水量の割合を示し、率は高いほどよいとされている。

３　経営状況について

（１）　収益的収入及び支出について

ア　下水道事業収益の年度比較は、表２に示すとおりである。

◎下水道事業収益は、３６億８，３２１万８千円で前年度３７億６，６６９万８千円と比べ、８，３４８万円（２．２％）の減少となっている。

○営業収益は、２３億８，１６７万７千円で前年度２３億６，９１７万円と比べ、１，２５０万６千円（０．５％）の増加となっている。

○営業外収益は、１３億１５３万８千円で前年度１３億４，９４６万９千円と比べ、４，７９３万１千円（３．６％）の減少となっている。

・内訳は、他会計補助金が３億８，３７７万５千円で前年度４億３，０５７万３千円と比べ、４，６７９万８千円（１０．９％）の減少、国庫補助金が２，４７６万８千円で前年度１，９７３万円と比べ、５０３万８千円（２５．５％）の増加、都補助金が２，８４７万５千円で前年度２，５９５万１千円と比べ、２５２万４千円（９．７％）の増加、長期前受金戻入が８億６，４４６万５千円で前年度８億７，３１６万円と比べ、８６９万５千円（１．０％）の減少、その他営業外収益が５４，９０８円で前年度５４，５０９円と比べ、３９９円（０．７％）の増加となっている。

○特別利益の過年度損益修正益は、３千円で前年度４，８０５万９千円と比べ、４，８０５万６千円（１００．０％）の減少となっている。

表２　　下水道事業収益年度比較表

（税抜）　（単位：円：％）

科目＼区分		令和７年度 決算額(A)	構成比	令和６年度 決算額(B)	構成比	対前年度 増減額(A)－(B)	比率
下水道事業収益		3,683,218,036	100.0	3,766,698,250	100.0	△ 83,480,214	△ 2.2
営業収益		2,381,676,860	64.7	2,369,170,480	62.9	12,506,380	0.5
	下水道使用料	2,069,020,895	56.2	2,053,515,462	54.5	15,505,433	0.8
	他会計負担金	311,655,000	8.5	315,128,000	8.4	△ 3,473,000	△ 1.1
	その他営業収益	1,000,965	0.0	527,018	0.0	473,947	89.9
営業外収益		1,301,537,766	35.3	1,349,468,517	35.8	△ 47,930,751	△ 3.6
	他会計補助金	383,775,000	10.4	430,573,000	11.4	△ 46,798,000	△ 10.9
	国庫補助金	24,768,000	0.7	19,730,000	0.5	5,038,000	25.5
	都補助金	28,475,000	0.8	25,951,000	0.7	2,524,000	9.7
	長期前受金戻入	864,464,858	23.5	873,160,008	23.2	△ 8,695,150	△ 1.0
	その他営業外収益	54,908	0.0	54,509	0.0	399	0.7
特別損失		3,410	0.0	48,059,253	1.3	△ 48,055,843	△ 100.0
	過年度損益修正益	3,410	0.0	48,059,253	1.3	△ 48,055,843	△ 100.0

イ　下水道事業費用の年度比較は、表３に示すとおりである。

◎下水道事業費用は、３５億７９０万４千円で前年度３４億３，９４８万７千円と

比べ、６，８４１万７千円（２．０％）の増加となっている。

○営業費用は、３３億２，８５０万２千円で前年度３２億４，３１０万１千円と比べ、８，５４０万１千円（２．６％）の増加となっている。

・内訳は、管渠管理費が９億９，４１５万５千円で前年度９億４，２９５万３千円と比べ、５，１２０万２千円（５．４％）の増加、総係費が３億６６２万１千円で前年度２億６，９９５万７千円と比べ、３，６６６万４千円（１３．６％）の増加、減価償却費が２０億２，７７２万６千円で前年度２０億２，９１３万６千円と比べ、１４１万円（０．１％）の減少、資産減耗費が０円で前年度１０５万５千円と比べ、皆減となっている。

○営業外費用は、１億７，９４０万１千円で前年度１億９，６１７万５千円と比べ、１，６７７万４千円（８．６％）の減少となっている。

・内訳は、支払利息及び企業債取扱諸費が１億７，１３４万９千円で前年度１億８，８４０万２千円と比べ、１，７０５万３千円（９．１％）の減少、雑支出が８０５万３千円で前年度７７７万３千円と比べ、２７万９千円（３．６％）の増加となっている。

表３　下水道事業費用年度比較表

（税抜）　（単位：円：％）

科目＼区分			令和７年度		令和６年度		対前年度	
			決算額 (A)	構成比	決算額 (B)	構成比	増減額 (A)－(B)	比率
下水道事業費用			3,507,904,251	100.0	3,439,487,382	100.0	68,416,869	2.0
	営業費用		3,328,501,560	94.9	3,243,101,033	94.3	85,400,527	2.6
		管渠管理費	994,154,741	28.3	942,952,991	27.4	51,201,750	5.4
		総係費	306,620,837	8.7	269,956,696	7.8	36,664,141	13.6
		減価償却費	2,027,725,982	57.8	2,029,136,216	59.0	△ 1,410,234	△ 0.1
		資産減耗費	0	0.0	1,055,130	0.0	△ 1,055,130	皆減
	営業外費用		179,401,390	5.1	196,175,394	5.7	△ 16,774,004	△ 8.6
		支払利息及び企業債取扱諸費	171,348,823	4.9	188,402,048	5.5	△ 17,053,225	△ 9.1
		雑支出	8,052,567	0.2	7,773,346	0.2	279,221	3.6
	特別損失		1,301	0.0	210,955	0.0	△ 209,654	△ 99.4
		過年度損益修正損	1,301	0.0	210,955	0.0	△ 209,654	△ 99.4

（２）　経営成績について

ア　比較損益計算書は、表４に示すとおりである。

・営業損失は、９億４，６８２万５千円で前年度８億７，３９３万１千円と比べ、

７，２８９万４千円（８．３％）の増加となっている。

・経常利益は、１億７，５３１万２千円で前年度２億７，９３６万３千円と比べ、１億４０５万１千円（３７．２％）の減少となっている。

・当年度純利益は、１億７，５３１万４千円で前年度３億２，７２１万１千円と比べ、１億５，１８９万７千円（４６．４％）の減少となっている。

表４

比較損益計算書

（単位：円：％）

科目	令和７年度			令和６年度		令和５年度
	金額	対前年度		金額	対前年度比率	金額
		増減額	比率			
営業収益（A）	2,381,676,860	12,506,380	0.5	2,369,170,480	101.9	2,324,077,257
下水道使用料	2,069,020,895	15,505,433	0.8	2,053,515,462	100.6	2,041,670,525
他会計負担金	311,655,000	△ 3,473,000	△ 1.1	315,128,000	111.7	282,079,000
その他営業収益	1,000,965	473,947	89.9	527,018	160.8	327,732
営業費用（B）	3,328,501,560	85,400,527	2.6	3,243,101,033	101.1	3,207,102,567
管渠管理経費	994,154,741	51,201,750	5.4	942,952,991	107.1	880,474,795
総係費	306,620,837	36,664,141	13.6	269,956,696	97.7	276,332,078
減価償却費	2,027,725,982	△ 1,410,234	△ 0.1	2,029,136,216	99.0	2,050,295,694
資産減耗費	0	△ 1,055,130	皆減	1,055,130	皆増	－
営業損益（C）＝（A）－（B）	△ 946,824,700	△ 72,894,147	8.3	△ 873,930,553	99.0	△ 883,025,310
営業外収益（D）	1,301,537,766	△ 47,930,751	△ 3.6	1,349,468,517	86.6	1,558,657,642
他会計補助金	383,775,000	△ 46,798,000	△ 10.9	430,573,000	69.8	616,726,000
国庫補助金	24,768,000	5,038,000	25.5	19,730,000	82.7	23,850,000
都補助金	28,475,000	2,524,000	9.7	25,951,000	156.3	16,605,000
長期前受金戻入	864,464,858	△ 8,695,150	△ 1.0	873,160,008	96.9	901,424,655
その他営業外収益	54,908	399	0.7	54,509	104.9	51,987
営業外費用（E）	179,401,390	△ 16,774,004	△ 8.6	196,175,394	91.0	215,481,097
支払利息及び企業債取扱諸費	171,348,823	△ 17,053,225	△ 9.1	188,402,048	87.6	215,088,931
雑支出	8,052,567	279,221	3.6	7,773,346	1,982.2	392,166
営業外損益（F）＝（D）－（E）	1,122,136,376	△ 31,156,747	△ 2.7	1,153,293,123	85.9	1,343,176,545
経常損益（G）＝（C）＋（F）	175,311,676	△ 104,050,894	△ 37.2	279,362,570	60.7	460,151,235
特別利益（H）	3,410	△ 48,055,843	△ 100.0	48,059,253	217.0	22,150,921
特別損失（I）	1,301	△ 209,654	△ 99.4	210,955	0.2	87,779,400
過年度損益修正損	1,301	△ 209,654	△ 99.4	210,955	0.2	87,779,400
特別損益（J）＝（H）－（I）	2,109	△ 47,846,189	△ 100.0	47,848,298	△ 72.9	△ 65,628,479
当年度純損益（K）＝（G）＋（J）	175,313,785	△ 151,897,083	△ 46.4	327,210,868	82.9	394,522,756
前年度繰越利益剰余金	1,592,685,408	327,210,868	25.9	1,265,474,540	145.0	872,934,784
その他未処分利益剰余金変動額	0	0	0.0	0	0.0	0
当年度未処理剰余金	1,767,999,193	175,313,785	11.0	1,592,685,408	125.7	1,267,457,540

イ　下水道使用料収納状況の年度比較は、表５に示すとおりである。

表５

下水道使用料収納状況年度比較表

（単位：円：％）

区　分		令和７年度	令和６年度	対前年度	
				増減	増減率
調定額		2,388,645,922	2,384,656,438	3,989,484	0.2
	現年度分	2,261,967,692	2,256,892,706	5,074,986	0.2
	滞納繰越分	126,678,230	127,763,732	△ 1,085,502	△ 0.8
収入済額		2,274,987,530	2,257,344,680	17,642,850	0.8
	現年度分	2,151,155,455	2,132,174,082	18,981,373	0.9
	滞納繰越分	123,832,075	125,170,598	△ 1,338,523	△ 1.1
徴収率		95.2	94.7	0.5	0.5
	現年度分	95.1	94.5	0.6	0.6
	滞納繰越分	97.8	98.0	-0.2	△ 0.2
不納欠損額		603,992	709,017	△ 105,025	△ 14.8
	現年度分	0	0	0	－
	滞納繰越分	603,992	709,017	△ 105,025	△ 14.8
未収入額		113,054,400	126,602,741	△ 13,548,341	△ 10.7
	現年度分	110,812,237	124,718,624	△ 13,906,387	△ 11.2
	滞納繰越分	2,242,163	1,884,117	358,046	19.0

下水道使用料の徴収事務については、「日野市公共下水道使用料徴収事務の事務委託に関する規約」に基づき東京都に委託して実施している。

委託額については、表６に示すとおりである。

表６　　東京都水道局への委託額

（単位：円：%）

令和７年度	令和６年度	対前年度	
		増減額	比率
235,732,174	204,116,757	31,615,417	15.49

ウ　職員配置状況は、表７に示すとおりである。

表７　　職員配置状況年度比較表

（単位：人）

区　分	令和７年度	令和６年度	増　減
損益勘定支弁職員	６（１）	６（１）	０（―）
資本勘定支弁職員	４（０）	４（０）	０（―）
合　計	１０（１）	１０（１）	０（―）

※（　）内は再任用職員（外書き）

※損益勘定支弁職員は、経営や施設管理に関わる職員で、収益的収支から給料が支払われ、
資本勘定支弁職員は、拡張事業を担当する職員で、資本的収支から給料が支払われる。

・当年度末の職員総数は、１０人で前年度末と同一である。

・損益勘定支弁職員数は、６人で前年度末と同一である。

・資本勘定支弁職員数は、４人で前年度末と同一である。

４　資本的収入及び支出について

（１）　資本的収支状況について

ア　資本的収支状況の年度比較は、表８に示すとおりである。

・資本的収入は、７億４，２８９万円で前年度３億９，７１０万４千円と比べ、３億４，５７８万６千円（８７．１％）の増加となっている。

・資本的支出は、１７億４，８１６万４千円で前年度１５億８，３５１万２千円と

比べ、１億６，４６５万２千円（１０．４％）の増加となっている。

イ　資本的収入の内訳は、次のとおりである。

・企業債は、６億８，３７０万円で前年度２億９，８４０万円と比べ、３億８，５３０万円（１２９．１％）の増加となっている。

・補助金は、５，９１９万円で前年度９，８７０万４千円と比べ、３，９５１万４千円（４０．０％）の減少となっている。

ウ　資本的支出の内訳は、次のとおりである。

・建設改良費は、７億１，９９８万４千円で前年度４億６０１万８千円と比べ、３億１，３９６万５千円（７７．３％）の増加となっている。

・企業債償還金は、１０億２，８１８万１千円で前年度１１億７，７４９万４千円と比べ、１億４，９３１万３千円（１２．７％）の減少となっている。

表８　**資本的収支状況年度比較表**

（税抜）　（単位：円：％）

区分／科目		令和７年度 決算額(A)	構成比	令和６年度 決算額(B)	構成比	対前年度 増減額(A)－(B)	比率
資本的収入		742,890,000	100.0	397,104,000	100.0	345,786,000	87.1
	企業債	683,700,000	92.0	298,400,000	75.1	385,300,000	129.1
	補助金	59,190,000	8.0	98,704,000	24.9	△ 39,514,000	△ 40.0
資本的支出		1,748,164,444	100.0	1,583,512,493	100.0	164,651,951	10.4
	建設改良費	719,983,529	41.2	406,018,087	25.6	313,965,442	77.3
	企業債償還金	1,028,180,915	58.8	1,177,494,406	74.4	△ 149,313,491	△ 12.7

エ　企業債の概況は、次のとおりである。

表９　**企業債の概況**

（単位：円）

前年度末未償還残高	当年度 借入額	当年度 償還額	当年度末未償還残高
11,590,271,214	683,700,000	1,028,180,915	11,245,790,299

（２）　建設改良事業の概況について

（管路更生）

○多摩平地区　管渠更生工事

○百草地区　管渠更生工事

○百草地区　人孔蓋取替工事

（汚水管渠埋設）

○西平山土地区画整理事業施行地区内　汚水管渠工事

○東町土地区画整理事業施行地区内　汚水管渠工事

○万願寺第二土地区画整理事業施行地区内　汚水管渠工事

○豊田南土地区画整理事業施行地区内　汚水管渠工事

５　財政状況について

下水道事業の財政状況は、表１０（１１７ページ）に示すとおりである。

（１）　資産総額は、５３０億４，６７７万４千円で前年度５４０億９，４７５万２千円と比べ、１０億４，７９７万８千円（１．９％）の減少となっている。

ア　固定資産は、５１３億８，３９３万円で前年度５２６億９，１６６万９千円と比べ、１３億７７３万９千円（２．５％）の減少となっている。

（ア）有形固定資産は、４５０億５，００１万３千円で前年度４６４億１，８３２万５千円と比べ、１３億６，８３１万１千円（２．９％）の減少となっている。

・内訳は、土地が１億６，８７９万７千円で前年度と同一、構築物が５５１億６３万４千円で前年度５４７億９，７３９万６千円と比べ、３億３２３万８千円（０．６％）の増加、機械及び装置が１，３６４万４千円で前年度と同一、工具器具及び備品が２，１６３万円で前年度と同一、建設仮勘定が１，６８７万１千円で前年度０円と比べ、皆増となっている。

なお、償却資産は、減価償却を行っている。

（イ）無形固定資産は、施設利用権が６３億３，３９１万７千円で前年度６２億７，３３４万５千円と比べ、６，０５７万２千円（１．０％）の増加となっている。

イ　流動資産は、１６億６，２８４万４千円で前年度１４億３０８万３千円と比べ、２億５，９７６万１千円（１８．５％）の増加となっている。

（ア）現金預金は、１４億４，５８７万６千円で前年度１１億６，５２３万８千円と比べ、２億８，０６３万８千円（２４．１％）の増加となっている。

（イ）未収金は、２億１，３８６万６千円で前年度２億３，５９５万３千円と比べ、２，２０８万７千円（９．４％）の減少となっている。

（ウ）その他貯蔵品は、３１０万２千円で前年度１８９万２千円と比べ、１２１万円（６４．０％）の増加となっている。

（２）　負債資本総額は、５３０億４，６７７万４千円で前年度５４０億９，４７５万２千円と比べ、１０億４，７９７万８千円（１．９％）の減少となっている。

ア　負債総額は、３５１億４，３３５万４千円で前年度３６３億６，６６４万６千円と比べ、１２億２，３２９万２千円（３．４％）の減少となっている。

（ア）固定負債は、企業債が１０２億６，６０４万１千円で前年度１０５億６，２０９万円と比べ、２億９，６０４万９千円（２．８％）の減少となっている。

（イ）流動負債は、１２億６，７２１万８千円で前年度１３億８，５６９万円と比べ、１億１，８４７万２千円（８．５％）の減少となっている。

・企業債は、９億７，９７４万９千円で前年度１０億２，８１８万１千円と比べ、４，８４３万２千円（４．７％）の減少となっている。

・未払金は、２億７，９１２万２千円で前年度３億４，９０１万４千円と比べ、６，９８９万２千円（２０．０％）の減少となっている。
・引当金は、８３４万７千円で前年度８４９万５千円と比べ、１４万８千円（１．７％）の減少となっている。

（ウ）繰延収益は、２３６億１，００９万５千円で前年度２４４億１，８８６万７千円と比べ、８億８７７万１千円（３．３％）の減少となっている。
・長期前受金は、２８９億６，８３２万３千円で前年度２８９億１，２６３万１千円と比べ、５，５６９万２千円（０．２％）の増加となっている。
・収益化累計額は、△５３億５，８２２万８千円で前年度△４４億９，３７６万５千円と比べ、８億６，４４６万４千円（１９．２％）の増加となっている。

イ　資本総額は、１７９億３４１万９千円で前年度１７７億２，８１０万６千円と比べ、１億７，５３１万４千円（１．０％）の増加となっている。

（ア）資本金は、１５９億６，６６２万３千円で前年度と同一となっている。

（イ）剰余金は、１９億３，６７９万６千円で前年度１７億６，１４８万２千円と比べ、１億７，５３１万４千円（１０．０％）の増加となっている。
・資本剰余金は、１億６，８７９万７千円で前年度と同一となっている。
・利益剰余金は、当年度未処分利益剰余金が１７億６，７９９万９千円で前年度１５億９，２６８万５千円と比べ、１億７，５３１万４千円（１１．０％）の増加となっている。

表１０

比 較 貸 借 対 照 表

（単位：円：％）

借方												貸方									
科目		令和７年度				令和６年度			令和５年度		科目		令和７年度				令和６年度			令和５年度	
		金額	構成比	対前年度 増減額	対前年度 比率	金額	構成比	対前年度比率	金額	構成比			金額	構成比	対前年度 増減額	対前年度 比率	金額	構成比	対前年度比率	金額	構成比
資産の部	固定資産	51,383,930,048	96.9	△ 1,307,739,043	△ 2.5	52,691,669,091	97.4	△ 3.0	54,315,842,350	97.8	負債の部	固定負債	10,266,041,368	19.4	△ 296,048,931	△ 2.8	10,562,090,299	19.5	△ 6.5	11,291,871,213	20.3
	有形固定資産	45,050,013,070	84.9	△ 1,368,311,447	△ 2.9	46,418,324,517	85.8	△ 3.0	47,835,758,837	86.2		企業債	10,266,041,368	19.4	△ 296,048,931	△ 2.8	10,562,090,299	19.5	△ 6.5	11,291,871,213	20.3
	土地	168,797,000	0.3	0	0.0	168,797,000	0.3	0.0	168,797,000	0.3		流動負債	1,267,217,838	2.4	△ 118,471,712	△ 8.5	1,385,689,550	2.6	△ 14.5	1,620,768,071	2.9
	構築物	55,100,633,898	103.9	303,237,764	0.6	54,797,396,134	101.3	0.5	54,522,183,401	98.2		企業債	979,748,931	1.8	△ 48,431,984	△ 4.7	1,028,180,915	1.9	△ 12.7	1,177,494,407	2.1
	機械及び装置	13,644,000	0.0	0	0.0	13,644,000	0.0	0.0	13,644,000	0.0		未払金	279,121,713	0.5	△ 69,891,922	△ 20.0	349,013,635	0.6	△ 19.5	433,801,664	0.8
	工具器具及び備品	21,629,778	0.0	0	0.0	21,629,778	0.0	0.0	21,629,778	0.0		引当金	8,347,194	0.0	△ 147,806	△ 1.7	8,495,000	0.0	△ 10.3	9,472,000	0.0
	建設仮勘定	16,870,876	0.0	16,870,876	皆増	0	0.0	0.0	0	0.0		賞与引当金	8,347,194	0.0	△ 147,806	△ 1.7	8,495,000	0.0	△ 10.3	9,472,000	0.0
	減価償却累計額	△ 10,271,562,482	△ 19.4	△ 1,688,420,087	19.7	△ 8,583,142,395	△ 15.9	24.6	△ 6,890,495,342	△ 12.4		繰延収益	23,610,095,061	44.5	△ 808,771,473	△ 3.3	24,418,866,534	45.1	△ 3.1	25,200,352,206	45.4
	無形固定資産	6,333,916,978	11.9	60,572,404	1.0	6,273,344,574	11.6	△ 3.2	6,480,083,513	11.7		長期前受金	28,968,323,268	54.6	55,692,084	0.2	28,912,631,184	53.4	0.3	28,821,422,823	51.9
	施設利用権	6,333,916,978	11.9	60,572,404	1.0	6,273,344,574	11.6	△ 3.2	6,480,083,513	11.7		収益化累計額	△ 5,358,228,207	△ 10.1	△ 864,463,557	19.2	△ 4,493,764,650	△ 8.3	24.1	△ 3,621,070,617	△ 6.5
	流動資産	1,662,843,699	3.1	259,760,712	18.5	1,403,082,987	2.6	17.1	1,198,043,967	2.2		負債合計	35,143,354,267	66.2	△ 1,223,292,116	△ 3.4	36,366,646,383	67.2	△ 4.6	38,112,991,490	68.7
	現金預金	1,445,876,053	2.7	280,637,698	24.1	1,165,238,355	2.2	18.2	985,437,916	1.8	資本の部	資本金	15,966,623,287	30.1	0	0.0	15,966,623,287	29.5	0.0	15,966,623,287	28.8
	未収金	213,865,646	0.4	△ 22,086,986	△ 9.4	235,952,632	0.4	13.6	207,772,051	0.4		自己資本金								15,966,623,287	28.8
	その他貯蔵品	3,102,000	0.0	1,210,000	64.0	1,892,000	0.0	△ 60.9	4,834,000	0.0		固定資本金								14,364,062,287	25.9
資産合計		53,046,773,747	100.0	△ 1,047,978,331	△ 1.9	54,094,752,078	100.0	△ 2.6	55,513,886,317	100.0		繰入資本金								1,602,561,000	2.9
												剰余金	1,936,796,193	3.7	175,313,785	10.0	1,761,482,408	3.3	22.8	1,434,271,540	2.6
												資本剰余金	168,797,000	0.3	0	0.0	168,797,000	0.3	0.0	168,797,000	0.3
												受贈財産評価額	78,108,000	0.1	0	0.0	78,108,000	0.1	0.0	78,108,000	0.1
												他会計補助金	90,689,000	0.2	0	0.0	90,689,000	0.2	0.0	90,689,000	0.2
												利益剰余金	1,767,999,193	3.3	175,313,785	11.0	1,592,685,408	2.9	25.9	1,265,474,540	2.3
												当年度未処分利益剰余金	1,767,999,193	3.3	175,313,785	11.0	1,592,685,408	2.9	25.9	1,265,474,540	2.3
												資本合計	17,903,419,480	33.8	175,313,785	1.0	17,728,105,695	32.8	1.9	17,400,894,827	31.3
											負債資本合計		53,046,773,747	100.0	△ 1,047,978,331	△ 1.9	54,094,752,078	100.0	△ 2.6	55,513,886,317	100.0

６　経営指標について

下水道事業の経営の経済性、効率性、収益性などを評価する主な指標の状況は、表１１に示すとおりである。

表１１　　主な経営指標

指　標	算出式	令和７年度	令和６年度	前年度比較
経常収支比率（％）	$\frac{\text{営業収益＋営業外収益}}{\text{営業費用＋営業外費用}} \times 100$	105.0	108.1	△ 3.1
流動比率（％）	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	131.2	101.3	29.9
使用料単価（円／㎥）	$\frac{\text{使用料収入}}{\text{年間有収水量}}$	118.1	117.8	0.3
汚水処理原価（円／㎥）	$\frac{\text{汚水処理費}}{\text{年間有収水量}}$	110.8	104.6	6.2
経費回収率（％）	$\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費}} \times 100$	106.6	112.7	△ 6.1

※各指標について

【経常収支比率】

当該年度において、使用料収入や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標であり、１００％以上であれば、単年度の経常的な活動における収支が黒字であることを表している。

【流動比率】

短期的な債務に対する支払能力を表す指標であり、一般的に１００％を下回る場合は、１年以内に現金化できる資産で１年以内に支払わなければならない負債を賄えていないことを表している。

【使用料単価】

年間有収水量１㎥当たりの下水道使用料収入であり、使用料の水準を示す指標で、１㎥の汚水処理に対して徴収した料金（収益）を表している。

【汚水処理原価】

年間有収水量１㎥当たりの汚水処理に要した費用であり、汚水資本費、汚水維持管理費の両方を含めた汚水処理に係るコストを表した指標である。

【経費回収率】

使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表す指標であり、１００％以上であれば、汚水処理に係る経費を全て使用料で賄えている状況を表している。

第３　意見・要望等

令和７年度は、下水道事業に地方公営企業法の財務規定を適用し、公営企業会計へ移行した６年度目の決算となる。

営業収益が２３億８，１６７万７千円、営業費用が３３億２，８５０万２千円で、営業損益は９億４，６８２万５千円の損失となり、営業外収益は１３億１５３万８千円、営業外費用は１億７，９４０万１千円で、経常損益は１億７，５３１万２千円の利益となった。また、特別利益３千円、特別損失１千円を差し引くと、当年度純損益は１億７，５３１万４千円の利益となっている。なお、特別利益は構築物減価償却累計額の修正、特別損失は長期前受金収益化累計額の修正である。

当年度の主な工事としては、建設改良事業として、管路更生工事が多摩平地区及び百草地区で管渠更生工事、百草地区で人孔蓋取替工事が実施され、汚水管渠埋設工事が西平山、東町、万願寺第二、及び豊田南土地区画整理事業施行地区内で汚水管渠工事が実施された。

なお、令和７年度末における人口に対する下水道普及率は９６．４％、水洗化率は９７．９％となっている。

経営指標を見てみると、経常収益で経常費用をどの程度賄えているかを示す経常収支比率は１０５．０％で黒字となり、経費回収率は１０６．６％で汚水処理に係る経費が使用料で賄えている状況となっている。普及率、処理区域面積は微増だが、下水道使用料収入の対象となる有収水量は前年度と比べると０．６％増加している。

以上のように、令和７年度の下水道事業会計決算は、純利益が計上された損益計算書や、各経営指標が示す数値を参照する限りにおいて、下水道事業の経営は概ね健全である。

令和７年度は、近年の気候変動に伴う大雨等による浸水被害の低減を目的として「雨水管理総合計画」を策定し、健全な事業経営の実現及び経営基盤の強化に取り組むとともに、「下水道事業経営戦略」の見直しを行った。

また、議会の議決による処分額１３億６，１８１万円は、令和２年度から令和６年度までの決算において、未処分利益剰余金のうち、すでに補填財源として使用した額を資本金へ振り替えたものである。

令和６年度との比較では、雨水量が少なかったことにより有収率が上昇したが、汚水管への雨水侵入による有収率の低減は課題であるため、健全化を図る視点からも年間有収水量の安定を確保できるよう対策を進め、有収率の向上に努めていただ

きたい。また、昨今の物価高騰の影響により、汚水処理費用が増加傾向にあり、加えて大規模災害への備えも重点を置く必要がある。今後、財源の根幹である下水道使用料については、人口減少に伴い、公共下水道使用者の減少及び有収水量の減少により収益の増加が見込めない状況もあり、現状の社会情勢等鑑みると厳しい経営環境を迎えることが予測される。

施設老朽化に伴う更新投資の増大については、下水道施設の長寿命化や計画的な更新を目的として平成２９年度に策定した「ストックマネジメント計画」、令和７年度に策定した「第２次日野市下水道プラン（後期計画）」、令和３年度に策定し、令和７年度に見直しを行なった中長期的な経営の基本計画である「日野市公共下水道事業経営戦略」により、財政負担の平準化を見据えて公営企業の理念に基づき効率性、経済性を発揮して、計画的かつ着実な取り組みを進めていただきたい。

下水道事業は、生活環境の改善や公衆衛生の向上、河川等の水質保全、都市の健全な発展等に欠くことのできない施設であり、市民生活を支える重要な都市基盤である。市民が安全で快適な生活を送るため、適切な事業運営に努められたい。

令和７年度の決算審査においては次の点を要望する。

未供用区域における下水道整備について

日野市における下水道未供用区域の大半は、施行中の土地区画整理事業区域と重複している現状である。財政非常事態宣言下において、土地区画整理事業の執行が抑制されていたが、令和７年度の宣言解除に伴い事業進捗のめどが立つとともに、令和８年３月に「市施行４地区土地区画整理事業の今後の進め方方針～事業計画の総点検結果を受けて～」が策定され、今後の方針が示された。しかし、本方針によると最も早期に完了する地区で令和１９年度であることから、土地区画整理事業に協力いただいている市民の不利益を解消するため、将来にわたる費用対効果を考慮した下水道管渠の先行整備について、調査研究されたい。

現金預金の運用について

公営企業会計の導入から６年度目であり、資金計画の作成及び収支のサイクルも把握できたと思われる。現金預金は毎決算時増加し、期末の現金預金残高は１４億４，５８７万６千円となり前年度比２億８，０６３万８千円増加した。今後においては一般会計からの繰入金の縮減を図り、独立採算を目指すため、下水道使用料の改定による汚水処理原価の回収や、経費の削減に努めるとともに資金の有効活用も必

要である。また、管の老朽化により他自治体で相次いで道路の陥没事故が生じていること等から、ついては、基金の創設や定期預金等による資産の効率的かつ効果的な運用について、調査研究されることを要望する。